３－Ｎｏ．２１
令和３年 12 月３日
茨城県水産試験場

今季のマダコの来遊は遅く、漁獲量は昨年程度の見込み

１．マダコの生態と茨城県での漁業

常磐海域のマダコは、春から初夏に外房周辺で生まれ、北上暖水によって、宮城県仙台湾周辺までの沿岸各地に分散して成長します。茨城県では本県沿岸に分散した「地ダコ」と秋から冬にかけて本県より北に分散したタコが産卵のために外房に向けて南下する「渡りダコ」が漁獲対象となっています。12 月から翌年 2 月頃までがマダコ漁のシーズンで、「たこつぼ漁」や「樽流し漁」などで漁獲され、特に鹿島で多く漁獲されます。鹿島灘で獲れたタコは“鹿島たこ”と称され、地域の特産品として知られています。

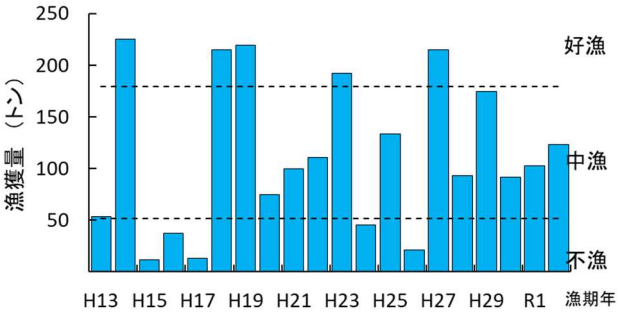

図１．茨城県沖の主漁期（12 月～翌年 2 月）におけるマダコ漁獲量の経年変化

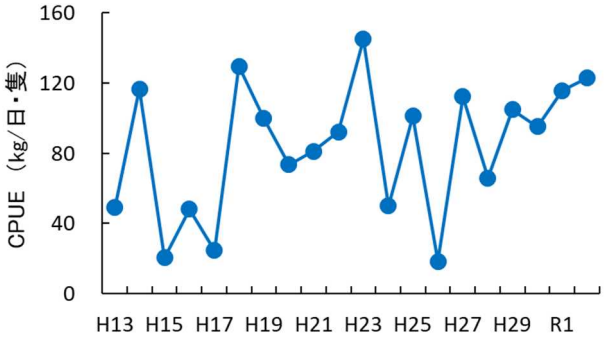

図２．主漁期におけるたこつぼ漁ＣＰＵＥの経年変化

２．昨年の漁模様

本県のマダコ漁の好不漁は「渡りダコ」の来遊状況に大きく影響されるため、過去 20 年間の漁獲量は 13～243 トンと大きく変動しています。昨年漁期（R2.9～R3.8）の漁獲量は 133 トンで、そのうち主漁期である 12～2 月にかけての漁獲量は 123 トンでした（図 1）。これは過去 20 年中 8 位の量で、中漁といえる漁模様でした。また、主漁期の「たこつぼ漁」に注目すると、その漁獲量は 109 トン、１日１隻当たりの漁獲量（CPUE）は 122.9 kg であり、CPUE に関しては過去 20 年の中で 3 位でした（図 2、漁獲量は 8 位）。

３．今季のマダコ漁の予測

本県の「渡りダコ」漁には、沿岸水温（那珂湊定地水温）が 15℃前後になると水揚げが始まり、10～12℃になると水揚げが増えるという傾向があります。現在の沿岸水温は 16℃前後、沖合水温はより高い状況にあります（図 3）。当場による海況予測では 12 月上旬の沿岸水温は「平年並～やや高め」としており、平年の目安となる 30 年平均水温は会瀬から鹿島沖では 14～19℃台となっています（水産の窓 3-No.19）。

一方、10 月末までの他県の漁獲状況としては、岩手県から福島県では、豊漁であった昨年の約６～８割という情報があります。

以上のことから、本県への渡りダコの来遊が本格化するのは、水温が低下する年明け以降となり、漁獲量は昨年や一昨年程度の中漁になると予測します。

（定着性資源部　水谷宏太）

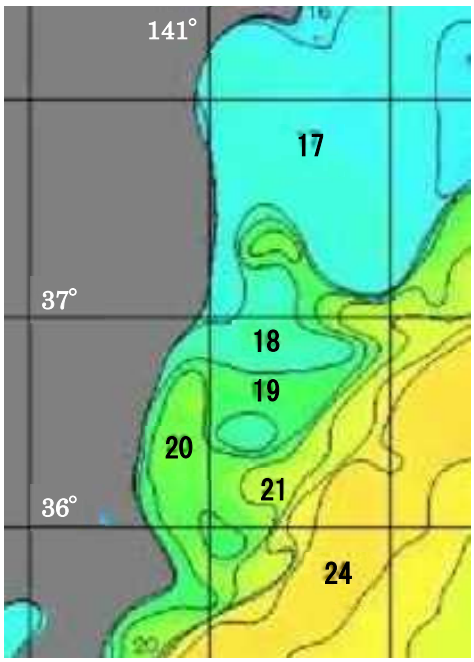

図３．海況概要（11 月 19 日～25 日）（出典：茨城水試漁業無線局、漁海況速報３－No. 34）

【次号予告】R3.12.10 発行の「水産の窓」は『海洋観測結果』を予定しています